



まだまだ

昨日の学級タイムでは、●●・●●ペアによる「マンマ・ミーア！」の解説と、●●くんによる星陵祭に向けてのプレゼン&決意表明？がなかなか素晴らしかった。「マンマ・ミーア！」については、最後が母親の結婚式になる…という辺りが、今イチ説得的には語られていなかったが（笑）、まあそれなりにあらすじは分かったに違いない。私は、過去に日比谷の演劇でも見ているし、アマンダ・セイフリッドが主演した映画も見たような気がする。ドタバタだが、登場人物がみんな「イイ人」なので、それが心温まるフィナーレに結びついていく過程を、楽しく明るく演じられれば、きっと素晴らしい劇になるだろう。

*

●●くんがそれに続いて合唱祭に関する決意表明？を行い、放課後の星陵会館ホールでの練習になったのだが、初めて2曲を通して聞いた私の印象としては（この時期だから少し厳しめになるが）、「まだまだ」といったところか。

「吹雪」については、「歌っている」のではなく、「歌に歌われている」といった印象を受けた。速いテンポがその感じをいっそう強めているのだろうが、音符を精一杯たどろうとしている、しかし、正確には辿りきれないまま、奔流のように流れるメロディーにただただ押し流されている…といった印象なのである。まずは各パート（というか、特に男声であるが）音を自信をもって出せるようにすることだ。その上で、周囲の状況の耳を傾けながら、自ら歌の表情をコントロールするようにならなければダメだろう。強弱の落差

がハッキリしすぎていて、荒削りの固い板にぶつかっているようだ。強弱があっても、強から弱、弱から強へと移り変わる部分を丁寧につなげていけば、力強く、かつ角のとれたなめらかな音になるのではないだろうか。

一方、「ドチリナ…」の方は、丁寧な歌い込みがなされている印象で、かなりイイ感じで聞くことができた。惜しむらくは、後半がまだまだ仕上がっていないところだろう。これも、まずは自信をもって音を出せるようにすると同時に、しみじみとした感動を誘うためにも、各音の終わり、特に、長く伸ばしすところなどを丁寧な発声でまとめるように心がけることが大切だろう。イメージとしては、天上から黄金色の美しい声が降ってくるといった感じに仕上がるとイイと思うので、楽譜をしっかりと頭に入れ、視線を少し上げ気味にしながら、優しく、かつ強く語りかけるような歌唱を目指してほしい。

*

通して聞くと、「吹雪」と「ドチリナ…」の組み合わせは対照的でとてもイイと思う。対照的だから、「ドチリナ…」を完璧にこなせば逆転のホームランになる可能性もなきにしもあらずだし、ゲスト審査委員ならキツリそれぞれの曲を評価して下さるとは思うが、生徒審査員に関しては、やはり最初の曲の印象が2曲目の評価に影響するということがあるのではないだろうか。その意味でも、「吹雪」をしっかり仕上げることは重要であると思う。「ドチリナ…」を磨きつつ、「吹雪」の完成度を高める練習を期待したい。